令和６年度　連携型中高一貫教育　実施報告

＜可茂地区＞　八百津中学校・八百津東部中学校・八百津高等学校

1　連携型中高一貫教育の目標とその達成に向けた具体的な取組

（1）連携型中高一貫教育の目標

「６年間を通して育てる・地域から学び、地域に貢献する人材の育成」～こつこつと学習に取り組み、まじめに生活を送る態度を育てる～

１．さらなる連携の推進　２．確かな学力をつける　３．生きる力を育む

（2）連携型中高一貫教育の令和６度の重点

① 発達段階に応じたキャリア教育を進めるとともに、中学校２年生の職業体験と高校１年生のインターンシップを、高校でのデュアルシステムに繋げる工夫をさらに進める。
② チャレンジテストの充実を図るとともに、継続的な取組の成果を実感させる工夫を進める。
③ 杉原千畝学習を継続し、１２年間に及ぶ人道学習を継続発展させる。

2　目標達成に向けた具体的な取組における成果と課題

目標	取　組	成果と課題
さらなる連携	キャリア教育の推進	○昨年度に引き続き、中学校も職場体験活動を実施することができた。八百津高校も、１年生全員がインターンシップ、２年生希望者９名は企業の協力で毎週木曜日にデュアル実習を実施することができた。 ○中学生体験入学、オープンスクールの際に「デュアルシステム説明会」を実施した。 ▲今後も継続して実施できるように、協力企業とプログラムの運営に関して検証を行う。 【実習風景】
	連携型入試の取組推進	○チャレンジテストの継続的な取組、高校側による定期的なチェックと指導を行うことができた。 ○実力養成セミナーを連携の２中学校それぞれを会場として実施できた。 ▲チャレンジテストの重要性の生徒・職員への周知徹底 【個別チェック】
	相互理解の推進	○連携中学校３年生体験入学で、連携中学卒業生による説明や交流の場面を設定した。 ▲継続的で分かりやすい発信方法を模索する。交流活動(進路説明会、ＰＴＡ見学会、部活動やボランティア活動)を模索する。 【体験入学での交流会】

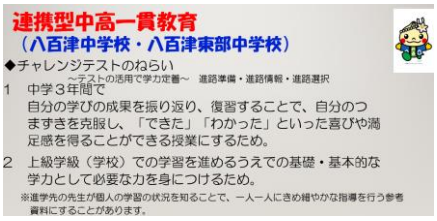
<table>
<tr><td rowspan="3">確かな学力</td><td>交流授業の充実</td><td>○高校の授業公開により高校生のつまずきを把握することで、中学段階で何に留意すべきか等について共通認識ができた。
○ＴＴによる交流授業は生徒の実態把握がしやすく、教える教師・生徒双方に効果がある。
○東部中への出前授業ではキャリア教育と面接指導について実施した。

▲生徒の能動的な学びを引き出すＴＴ指導の在り方、出前授業の内容を模索検討

【出前授業の様子】</td></tr>
<tr><td>６年間を見通した指導の充実</td><td>○中高連携学力養成セミナーを夏休みの３日間、２中学校を会場に実施した。

▲学力養成セミナーの２中学校別の３日間開催の日程調整と参加者の増加策

【学力養成セミナーの様子】</td></tr>
<tr><td>チャレンジテストの充実</td><td>○八百津高校教員が連携中学校での高校説明会において、チャレンジテストの重要性（高校入試の基礎学力の定着）を説明した。

▲チャレンジテストの重要性について中学生及び保護者の方に理解していただけるような啓発活動を継続する。
 

【チャレンジテスト説明】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生きる力</td><td>地域や異校種間連携の強化</td><td>○昨年に引き続き開催された八百津祭りに、八百津中学、高校生が参加した。今年は地元の祭囃子で笛の奏者として、また、体育系の部活動と有志の生徒は山車の曳き手として力を発揮し、地元より高評価を得た。
▲参加者（祭り）の減少傾向が考えられるため、早い段階から参加を募り、地域の人々と触れ合うことを通して、つながりの大切さを伝えていきたい。

【八百津祭りの様子】</td></tr>
<tr><td>人道教育の強化</td><td>○連携中学校出身者にとって杉原千畝は身近な存在である。しかし、他の中学校出身者も多いので、八百津高校１年生全員に対して杉原千畝についての学習をイスラエル出身の方を講師に人道教育を行った。

▲人道教育での学びを日常の場面に生かせる実践力の育成。
▲地域や行政との日常的な連携の維持・強化。

【講演会の様子】</td></tr>
</table>